「格子ボルツマン法・差分格子ボルツマン法」
正誤表（初版第1刷）

頁	行・式	誤	正
6	2	ここで，∇^2は	ここで，式(1.17)における∇^2は
10	式(1.30)	$\rho^*=$	(削除)
10	式(1.31)	υ	ν（ギリシャ文字のニュー）
11	3	ここで，外力	ここで，簡単のため外力
22	式(2.20)	$u^{(1)}$	$u^{(2)}$
23	2	$u=f$	$u=g$
33	下から1	(0か1か)が使う	(0か1か)を使う
35	式(3.7)	$=\Sigma$	$=(1/2)\Sigma$
36	11	衝突子方向	衝突し方向
36	式(3.11)	$=\Sigma$	$=(1/2)\Sigma$
37	7	この差が	式(3.12)で表される差が
38	15	格子Boltzmann法は	格子Boltzmann法においては
41	17	を格子の速度より，十分	を，格子の速度より十分
41	21	Tは温度	Tは絶対温度
48	5(2か所)	(ε^l)	(1)
60	下から5	(文末に右記の文章を追記)	左辺第3項は，負の粘性項であり，移流とは無関係なので変更はない。
64	12	については，流れの	については，格子Boltzmannモデルにおいては流れの
65	下から11	長さである	長さで，mは辺の数である
81	5	および(c)	(削除)
85	下から6	階数	回数
90	5	左辺	右辺
93	14	動粘性率	粘性率
95	11	蒸発現象	凝縮現象
95	12	凝縮	蒸発
98	7	粒子流速	粒子速度
101	3	格子で，	格子で構成され，
102	5	存在する，このときは	存在する，これが遷音速流である。このときは